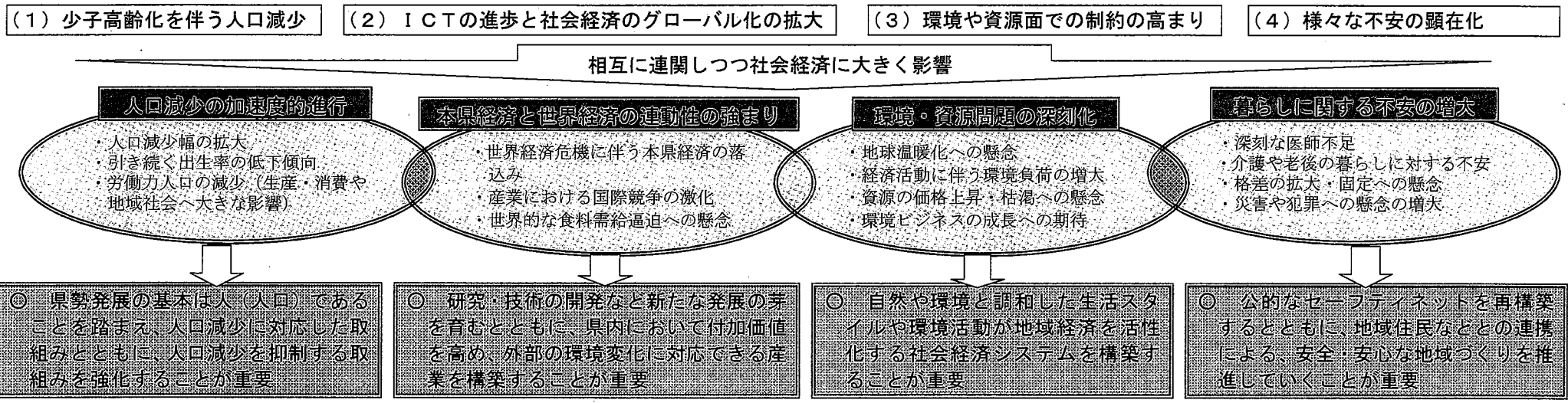


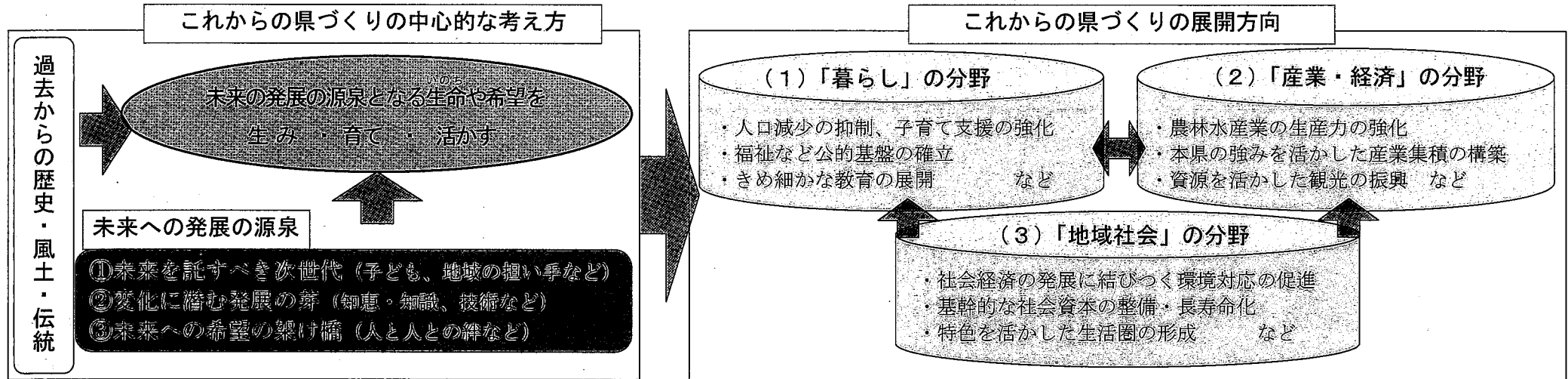
【総論】

1 社会経済状況の変化と対応に向けた基本的な認識

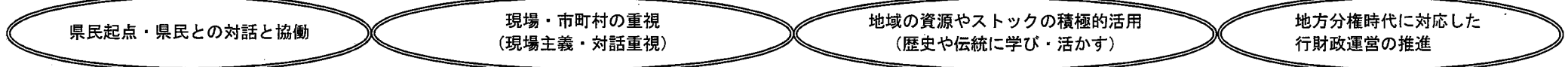


2 これからの県づくりの基本方向

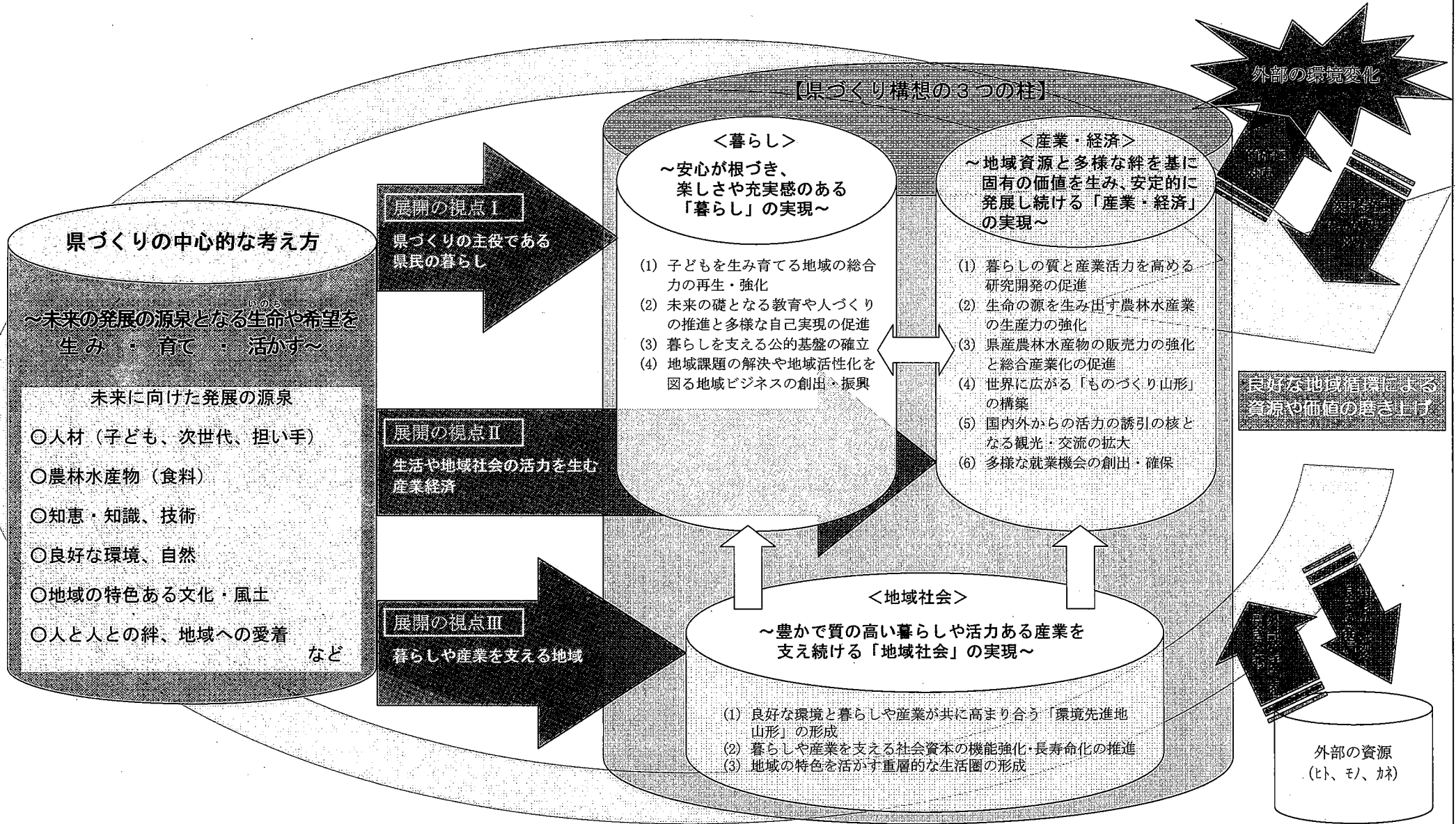
(1) これからの県づくりの基本的な考え方



(2) 県づくりを推進する視点



<県づくりの構図>



# 県づくり構想の柱1:安心が根つき、楽しさや充実感のある「暮らし」の実現

## 山形が大切にしてきた”人と人の絆”

### 展開方向(1):

子どもを生み育てる地域の総合力の再生・強化

#### ◆ 安心して子どもを生み育てられる社会的条件の整備

- ①結婚・妊娠・出産に対する支援
- ②子育てと仕事などを両立できる環境の整備
- ③子育てに関わる経済的支援の強化
- ④子育てを社会全体で支援する気運醸成と仕組みづくり

#### ◆ 若者の県内定着・県内回帰の促進

- ①幼少期からの地域への愛着の醸成
- ②若者の学びや多様な地域活動の促進
- ③就業機会など生活基盤の確保による若者の県内定着・回帰の促進

### 展開方向(2):

未来の礎となる教育や人づくりの推進と多様な自己実現の促進

#### ◆ 学校におけるきめ細かな教育の推進

- ①一人ひとりを大切にする教育体制の整備
- ②社会で生きていく確たる基礎を育む教育の展開
- ③一人ひとりの意欲と能力を引き出す教育の推進

#### ◆ 学校と家庭・地域との連携による教育力の向上

- ①家庭における教育力の向上
- ②地域における教育力の向上
- ③学校・家庭・地域が協働した教育の推進

#### ◆ 県民一人ひとりの能力発揮と社会への還元

- ①女性や高齢者、障がい者などの能力発揮機会の充実
- ②暮らしの楽しさや生きがいにつながる文化などの活動の促進

### 展開方向(3):

暮らしを支える公的基盤の確立

#### ◆ 多様な公益活動など「新たな公」の創出と活動の促進

- ①多様な公益活動の担い手の育成
- ②公益活動と地域課題とをつなぐ機能の強化
- ③公益活動を支える新たなシステムの構築

#### ◆ 保健・医療・福祉提供体制の充実強化

- ①地域における保健・医療・福祉の充実と連携の促進
- ②高齢者や障がい者などの生活を支える福祉サービスの充実
- ③児童虐待やDVなど様々な虐待に関する対策の強化

### 展開方向(4):

地域課題の解決や地域活性化を図る地域ビジネスの創出・振興

#### ◆ 地域特性を踏まえた地域ビジネスの創出

- ①地域ビジネスを通じて地域に貢献しようとする人材の育成
- ②地域ビジネスの創出・安定的経営に向けた支援
- ③地域ビジネスを地域が一体となって支える仕組みづくり

#### ◆ 暮らしの安全・安心の確保

- ①離職者などに対する生活支援対策の充実
- ②災害対応など危機管理機能の充実強化
- ③治安対策などの充実
- ④消費生活や食の安全・安心の確保

県づくり構想の柱2: 地域資源と多様な絆を基に固有の価値を生み、安定的に発展し続ける「産業・経済」の実現

ものづくりや農林水産物を育む”技術や心“



県づくり構想の柱3：豊かで質の高い暮らしや活力ある産業を支え続ける「地域社会」の実現

国内外に誇れる自然や環境、人と自然が調和する暮らしやそれを支える精神性

展開方向(1):  
良好な環境と暮らしや産業が共に高まり合う「環境先進地山形」の形成

◆ 低炭素社会などの形成に向けた先進的な地域システムづくりの推進

- ①環境制約に対応したライフスタイルの転換を促す新たな仕組みづくり
- ②先進的、実験的な地域システムの構築

◆ 地域の環境資産の活用による経済活力の向上

- ①リサイクル産業のさらなる振興
- ②新たな環境関連産業の創出・育成
- ③環境活動に対する内外からの活力の引き込み

◆ 山形ならではの“自然との共生の文化”に基づく環境地域づくりの推進

- ①多様な命を育む水、森などの保全・活用
- ②自然との共生のもとに主体的に行動する人材の育成
- ③環境や文化を活かした地域づくり活動の促進

展開方向(2):  
暮らしや産業を支える社会資本の機能強化・長寿命化の推進

◆ 必要な社会資本の整備と有効活用・長寿命化の推進

- ①災害等に強い安全・安心な県土づくり
- ②交通、情報通信ネットワークの整備
- ③利便性の高い身近な社会資本づくり
- ④ストックを活かした質の高い社会資本づくり

展開方向(3):  
地域の特色を活かす重層的な生活圏の形成

◆ 地域の特色を活かし暮らしを支える生活圏の形成

- ①身近な生活圏の形成 <日々の暮らしに不可欠な機能やサービスを身近に利活用できる圏域の形成>
    - ・医療 ・介護サービス ・日用品の購入
    - ・義務教育 ・除排雪 など
    - \* 「まち」の拠点性の維持
    - \* 過疎地域や中山間地域などの生活支援機能の確保
  - ②地域生活圏の形成 <暮らしの充実や質の向上に必要な機能やサービスが容易に利活用できる圏域の形成>
    - ・高度医療 ・高等教育 ・芸術・文化 など
    - \* 中心市街地の再生など都市の拠点性強化
    - \* 都市の周辺地域の資源を活かした交流拡大
    - \* 地域生活圏間等での相互の機能活用の推進
- ⇒地域の特色を活かしながら、地域相互の連携を通じて県全体の活力や魅力向上へ

【4つの地域の発展方向】

個性を活かし、多様な主体が一体となった地域づくりと地域間連携の推進

庄内地域

海・山・平野と歴史が育んだ文化産業と新たな胎動が融合した新しい地域モデルの創造

最上地域

生涯いきいきと豊かなライフスタイルを実現できる最上へ～最上エコポリスの新たな展開～

置賜地域

伝統・文化が実を結び、人々が支え合い輝く、力強い産業が根を張る魅力ある置賜の創造

村山地域

都市と農村が共鳴しあい、様々な県民活動が展開される田園都市圏「村山」

## 新たな総合計画 長期構想 答申素案の概要

## I 総論

## 1 社会経済状況の変化と対応に向けた基本的な認識

## (1) 少子高齢化を伴う人口減少

少子高齢化を伴う人口減少の加速化を踏まえ、地域活力の維持・向上に向け、人口減少適応策の推進とともに、人口減少抑制策の強化が重要となる。

## (2) ICT（情報通信技術）の進歩と社会経済のグローバル化の拡大

ICTの進歩などを背景とした社会経済のグローバル化が進み、本県経済と世界経済の連動性が強まる中、将来に向けて研究・技術開発など新たな発展の芽を育むとともに、県内において付加価値を高め、外部の環境変化にも対応できる産業の構築が重要となる。

## (3) 環境や資源面での制約の高まり

世界的に資源の枯渇や環境負荷の増大に対する懸念が高まる中、自然や環境と調和した生活スタイルや環境活動が地域経済を活性化する社会経済システムの構築が重要となる。

## (4) 様々な不安の顕在化

近年の行き過ぎた市場主義や急激な構造改革などを背景とする県民の様々な不安の解消に向け、公的なセーフティネットの再構築と、地域住民などとの連携による安全・安心な地域づくりの推進が重要となる。

## 2 これからの県づくりの基本方向

## (1) これからの県づくりの基本的な考え方

急激な環境変化にも柔軟かつ的確に対応できる地域社会を形成するため、未来を託すべき次世代や変化に潜む発展の芽を絶やさずに創出していく。

次代を担う次世代、価値を生み出す知恵・知識・技術、命の源となる食や農、人と人との絆を本県発展の源泉として位置づける。

未来の発展の源泉を、県民みんなで「生み」・「育て」・「活かす」ことを基本に、全ての政策を展開していく。

これからの政策展開にあたっては、まず、県づくりの主役である県民の暮らしが、安全で安心でき、楽しさや充実感を実感できるものとなるような政策を展開する。

また、生活や地域社会の活力を生むのは産業経済活動であり、県内の産業経済の活性化、発展を目指した政策を展開する。

さらに、県民の暮らしや産業経済活動を支えるのは地域社会であり、環境と調和しながら、暮らしや産業経済活動に必要な機能を提供する圏域の形成や歴史や文化を活かした県内4つの地域の特色ある発展を目指した政策を展開する。

このような3つの政策展開の視点に立って、県づくりを進める。

## (2) 県づくりを推進する視点

県民一人ひとりの想いと行動を起点として、以下の4つの視点を重視し、県づくりを推進していく。

## (県民起点・県民との対話と協働)

県民が真に必要な施策を実施していくため、県民との対話を進め、地域やNPO、企業など多様な主体との協働を推進する。

## (現場・市町村の重視（現場主義・対話重視）)

現場や地域が抱える課題を把握し、地域の特色を活かした発展を支援するため、実際に取組みを行う現場や市町村との対話を重視する。

## (地域の資源やストックの積極的活用（歴史や伝統に学び・活かす）)

既にある様々な資源やストックについて、新たな価値や可能性を見出し、磨き上げるなどして、これまで以上に有効に活用する。

## (地方分権時代に対応した行財政運営の推進)

地方分権時代に対応した自主性・自立性の高い県政運営の推進に向け、一層の行財政改革に取り組み、県民視点の県政運営システムを構築するとともに、その原動力となる「県民のための県庁」の実現と持続可能な財政基盤の確立を図る。

## II 県づくり構想

「暮らし」「産業・経済」「地域社会」の3つの柱の取組みを通じ、県民の暮らしの基盤づくりを進め、県内外の様々な資源を活用して産業経済や地域の活力を高めるとともに、将来の発展の源泉を絶えず創出していく県勢発展の好循環を確立する。

## (1) 暮らし

～安心が根つき、楽しさや充実感のある「暮らし」の実現～

社会経済情勢が大きく変化する中にあっても、県民の生活を支えるしっかりとした基盤づくりを進めるとともに、生涯にわたる安全・安心をもとに、多様な自己実現などを通じ、楽しさや充実感のある暮らしを実現する。

## (2) 産業・経済

～地域資源と多様な絆を基に固有の価値を生み、安定的に発展し続ける「産業・経済」の実現～

県内外の多様な資源を活用し、県内において新たな価値を創造・向上させるとともに、地域の課題解決や地産地消など地域内の需要の拡大も図りながら県内の産業活力を高め、国内外の社会経済情勢の変化に対応し安定的に発展し続ける産業・経済を実現する。

## (3) 地域社会

～豊かで質の高い暮らしや活力ある産業を支え続ける「地域社会」の実現～

環境の保全・創造とともに、環境をもとに、低炭素社会の実現につながる新たな暮らし方や活力ある産業経済活動を創出・実践する。

真に必要な社会資本の着実な整備とその機能の維持管理から向上・活用まで総合的な視点に立った社会資本づくりを推進する。

日々の暮らしに不可欠な機能を充足できる圏域を形成するとともに、地域間や広域的な連携を通じて豊かで質の高い暮らしや活力ある産業を支える地域社会を実現する。

## 1. 暮らし

### ～安心が根つき、楽しさや充実感のある「暮らし」の実現～

#### 【基本的考え方】

- 山形が大切にしてきた人と人との絆をもとに、生まれてから生涯にわたり、安全・安心が持続し、山形に生まれ、住み続けることに楽しさや充実感を持てる暮らしの実現を図る。
- ◎ 未来を託す世代を重視し、総合的な少子化対策を推進するとともに、若者の県内定着・回帰を促進するなど、人口減少を抑制する取組みを強化する。
  - ◎ 学校と家庭・地域が連携し、一人ひとりを大切にするきめ細かな教育を推進するとともに、県民一人ひとりが多様な能力を発揮できる機会を充実する。
  - ◎ 公的なセーフティネットの充実強化に加え、地域課題に取り組む新たな社会的仕組みを構築し、県民の安全・安心な暮らしを支える公的基盤を確立していく。
  - ◎ 地域の課題解決や活性化につながる地域ビジネスの創出・振興を図っていく。

#### 【展開方向】

##### (1) 子どもを生み育てる地域の総合力の再生・強化

###### (安心して子どもを生み育てられる社会的条件の整備)

未来を担う子どもの健やかな成長を中心に据え、生まれてから生涯にわたり、ライフステージに合わせた少子化対策を推進する。

○結婚を地域全体で支援する取組みの促進、妊娠期から継続した保健、医療などの支援体制の整備

○子どもとの関わりが集中する時期を中心とした多様な子育て支援サービスの充実

○子どもの誕生から自立までのすべての期間における経済的支援の強化

○県民一人ひとりの子育て支援の心を行動へと促す運動や仕組みづくりの推進

###### (若者の県内定着・県内回帰の促進)

幼少期からふるさとへの愛着を醸成し、若者の地域における活動を促進するとともに、生活基盤の確保を通じ若者の県内定着・回帰を促進する。

○地域に対する理解を深める教育の充実、体験・交流を通じ地域の魅力を実感する機会の拡大

○若者が互いに学びあい能力を高める機会の充実、若者と地域のつながりを強化する多様な活動の促進

○若者の個性や能力、希望を就業につなぐ取組みの充実、起業など若者の様々なチャレンジの促進、若者が山形暮らしの魅力に触れ、体験する機会の創出

##### (2) 未来の礎となる教育や人づくりの推進と多様な自己実現の促進

###### (学校におけるきめ細かな教育の推進)

学校間の連携など一人ひとりを大切にする教育体制を整備し、社会で生きていくための基礎を育む教育を展開するとともに、一人ひとりの意欲と能力を引き出す教育を推進する。

○義務教育段階における少人数学級編制の確立、幼・小・中・高の学校間連携の強化など子どもの発達に応じた連続性のある教育体制の構築

○知・徳・体の力を育成する教育の展開、小学校段階からの体系的なキャリア教育の推進

○体験や対話を重視した授業の展開、障がいのある子どもたち一人ひとりの将来を見据えた連続性のある発達支援の推進、高度な知識・技術の習得を図る特色ある高等教育の展開の促進

###### (学校と家庭・地域との連携による教育力の向上)

家庭や地域の教育力の向上を図るとともに、学校・家庭・地域が協働した教育を推進する。

○教育機関と福祉機関の連携の強化を通じた家庭教育や子育てに関する相談機能の充実

○地域文化の伝承活動など地域における学習・交流活動の促進

○地域住民による学校支援ボランティア活動の促進、児童生徒による地域ボランティア活動など学校が地域の一員としての役割を果たす取組みの促進

###### (県民一人ひとりの能力発揮と社会への還元)

生涯を通して県民が意欲に応じてその能力を発揮できる機会を充実するとともに、日々の暮らしの楽しさにつながる活動を促進する。

○県民誰もが能力を向上させる機会の充実、男女共同参画を進めながら高齢者などの知恵や技術を地域との関わりの中で発揮できる機会の充実

○仕事と生活の調和(ワーク・ライフ・バランス)の推進、県民の多様な関わり方を通じた文化・芸術やスポーツ活動の促進

##### (3) 暮らしを支える公的基盤の確立

###### (保健・医療・福祉提供体制の充実強化)

地域における医療や福祉基盤を整備充実し、保健・医療・福祉の連携を促進するとともに、高齢者や障がい者などの生活の質の向上を図る福祉サービスを充実する。

○県民一人ひとりに応じた切れ目のない医療・福祉サービスの提供、全ての県民が健康づくりや救急対応を実践できる取組みの推進、自殺予防に向けた相談・支援体制の強化

○介護・障がい福祉サービスを担う人材の確保と資質向上のための取組みの強化

○各種虐待の防止と早期発見・早期対応に向けた関係機関の連携強化

###### (暮らしの安全・安心の確保)

離職者などに対する生活支援対策や災害対応など危機管理機能、治安対策を充実するとともに、消費生活や食の安全・安心を確保する。

○離職者向けの職業訓練や就労から生活までに関する相談・支援の充実

○隣接県や関係機関などとの実践的な訓練を通じた災害などへの対応力の充実強化、自主防災組織の育成・強化、災害発生時や新型インフルエンザの大流行時の行政・企業の事業継続に向けた取組みの促進

○地域と行政・警察との連携による防犯活動の促進

○消費生活に関する相談機能や食の安全・安心を確保する取組みの強化

###### (多様な公益活動など「新たな公」の創出と活動の促進)

地域課題の解決に向けたNPOや企業などの活動を促進するとともに、それぞれが協働した活動や協働を推進する新たな仕組みづくりを進める。

○活動主体の企画立案能力などの向上に向けた行政との協働事業の推進

○地域課題の発見から解決に向けた公益活動まで展開する人材や団体などの育成

○NPO、企業、行政などの協働による公益活動の立上げから継続的な展開までを総合的に推進する仕組みづくり

##### (4) 地域課題の解決や地域活性化を図る地域ビジネスの創出・振興

###### (地域特性を踏まえた地域ビジネスの創出)

地域ビジネスを通じて地域に貢献しようとする人材を育成し、事業の創出から経営の安定まで一貫して支援するとともに、地域が一体となって事業を支える取組みを促進する。

○地域の課題解決や活性化について地域住民の関心を高める取組みの促進

○NPO、企業、商工団体、大学、行政などにおける、事業の成長段階に応じて支援するシステムの構築

○住民や企業などの知恵や技術などを活かして地域ビジネスを支援する仕組みの構築

## 2. 産業・経済

～地域資源と多様な絆を基に固有の価値を生み、安定的に発展し続ける  
「産業・経済」の実現～

### 【基本的考え方】

ものづくりや農林水産物を育む技術や心をもとに、本県産の農林水産物や製品・サービスの県内での需要・取引拡大や、多様な主体の連携により、県内においてその価値を高めていくとともに、国内外から観光客や知恵、技術、情報、資金などを県内へ引き込むことにより、外部環境の変化に強い産業構造を構築する。

- ◎ 未来の発展の源泉である「知恵・知識、技術」を生み出す研究開発を推進し、その成果を実用化に結びつける。
- ◎ 農林水産業の生産力を向上させ、日本の「食」を支える食料供給県としての地位を確立する。
- ◎ 農林水産業と他産業との連携を進め、生産から加工、流通、販売を通して価値を高める総合産業化を進める。
- ◎ 産学官の多様な主体の協働などを通じ、ものづくり産業群の基盤力を強化するとともに、技術基盤を活かした新たな分野への展開と県内外における取引拡大を進める。
- ◎ 豊富な地域資源を活用し、地域の総合力を発揮した観光・交流活動を促進して国内外の活力を誘引し、その効果を地域内で循環・波及させて地域活力の向上を図る。
- ◎ 県内産業の活力を高め、一人ひとりの能力を発揮できる多様な就業機会を創出・確保する。

### 【展開方向】

#### (1) 暮らしの質と産業活力を高める研究開発の促進

(新たな価値を生み出す研究開発や知的財産活用の促進)

次世代技術の研究開発を促進しその成果を着実に実用化に結びつけるとともに、研究開発の成果を適切に保護・活用し、次の新たな研究開発につなげる好循環を確立する。

- 有機エレクトロニクスやバイオテクノロジーなどの競争優位性のある分野における次世代技術の集積の形成に向けた取組みの強化
- 産学官、異業種間、異分野間の連携促進と多様な主体を結ぶコーディネート機能の強化
- 県内企業に対する知的財産を効果的に経済的価値に結び付ける取組みの促進
- 将来の本県産業や研究開発を担う人材の育成

#### (2) 生命の源を生み出す農林水産業の生産力の強化

(農林水産業の生産力の強化)

生産主体、生産基盤の維持・強化により生産力の強化を図るとともに、県民の「農」への理解を深める。

- 多様な担い手の農への参入や持続的な経営に向けたきめ細かな支援の充実
- 地球温暖化や資材高騰など環境変化に対応した栽培技術や新品種の開発普及の促進
- 多様な農地利用ニーズに応える生産基盤の整備と、農業を営むうえでの基盤としての農村全体の保全の促進
- 学校、家庭、地域が一体となった食育県民運動の推進と、食に関わる「農」の重要性の理解を深める食農教育の促進

#### (3) 県産農林水産物の販売力の強化と総合産業化の促進

(農林水産物の販売力の強化)

食に対する国内外の多様なニーズに応えるため、県産農林水産物の価値を高める総合産業化を促進するとともに、農業の根本である「安全・安心」の信頼感を確立する。

- 工業や観光など他産業との連携による付加価値の高い商品開発の促進
- 地産地消による域内需要の拡大と、多様な消費者ニーズに合わせた国内外の市場開拓の促進
- 消費者の信頼を得るための県産品の安全性や品質の確保に関する取組みの促進

#### (4) 世界に広がる「ものづくり山形」の構築

(本県の強みを活かした産業集積の形成)

本県ものづくり産業群の基盤力を強化するとともに、ものづくり技術を活かした新たな分野への展開と、県内外におけるビジネス展開を進める。

- 個々の企業の経営力の強化と、多様な主体の連携による地域全体の競争力強化
- 県内企業との取引拡大が期待される企業や今後の成長が期待される分野の企業など、県内産業への波及効果が期待される企業の誘致の推進
- ものづくり産業と他産業との連携による新商品や新サービスの開発の促進と、今後の成長が期待される分野への事業展開の促進
- 有機エレクトロニクス分野などの先導的取組み成果の着実な事業化
- 県内における部品や資材の需要・取引の拡大と、国内外における取引拡大の促進

#### (5) 国内外からの活力の誘引の核となる観光・交流の拡大

(魅力ある歴史・文化をはじめ地域の総合力を発揮した観光・交流の拡大)

地域住民と来訪者の双方にとって魅力ある地域づくりを促進するとともに、来訪者の多様なニーズに対応した受入態勢を整備する。

来訪者が高い満足を得ると同時に、迎える側との結びつきを深め、何度も訪れたいくなる観光・交流機会を創出・展開する。

- 地域の歴史や文化、食などについて学び、地域の魅力を高め、人との交流を広げていく人材の育成
- 地域の魅力に触れる様々な活動を組み合わせ、提案、紹介する機能の整備や、来訪者一人ひとりのニーズを踏まえた交通手段、交通施設などの整備の推進
- 地域資源を組み合わせるなど地域の総合力を発揮した、来訪者の多様なニーズに対応する観光・交流プログラム創出と、ターゲットを明確にした戦略的な情報発信

#### (6) 多様な就業機会の創出・確保

(新規創業の促進と労働力の誘導)

新たな事業を考え、チャレンジする人材を育成し、起業しやすい環境づくりを促進する。

次代の本県産業を担う人材を育成するとともに、適性に応じた就業の場を提供する。

- 子どもの頃からの起業意識の醸成や、若者など起業を志す一人ひとりの特性や環境に応じた起業から経営が安定するまでの切れ目ない支援機能の拡充
- 産業界のニーズを踏まえた職業訓練の実施

### 3. 地域社会

～豊かで質の高い暮らしや活力ある産業を支え続ける「地域社会」の実現～

#### 【基本的考え方】

人と自然が調和する暮らしやそれを支える県民の精神性のもと、良好な環境の保全・活用や社会資本の機能強化により、暮らしの質や産業の活力を高めるとともに、地域の特色を活かしながら生活に必要な機能やサービスを確保していく。

- ◎ 様々な環境活動をより一層高めるとともに、あらゆる施策に地球温暖化防止の視点を入れながら、低炭素社会の実現に向けた地域づくりを進め、経済や地域の活力向上に結びつけ、国内外を牽引する「環境先進地山形」を形成する。
- ◎ 全国的な視点や、地域の実情を踏まえて、社会資本の整備を進めるとともに、その機能の維持管理から向上・活用までを進める、社会資本づくりを推進する。
- ◎ 広域的な連携を含めて、日々の暮らしに不可欠な機能や、暮らしの充実や質の向上に必要な機能を利用できる生活圏域を形成する。

#### 【展開方向】

##### (1) 良好な環境と暮らしや産業が共に高まり合う「環境先進地山形」の形成

(山形ならではの“自然との共生の文化”に基づく環境地域づくりの推進)

良好な自然環境を保全・活用するとともに、山形ならではの共生の心に育まれた地域文化や伝統を活かした地域づくりを進める。

○環境保全に関する専門的知見を有する人材と活動主体との連携による科学的で効果的な活動の展開、森林の多面的機能を高める林業など自然環境の保全・向上に資する産業活動の促進

○人と自然との関わりを実感する機会の拡大、環境教育指導者の育成

○地域文化や景観など地域の資産の保全・創造や、それらの資産を教育や観光などに活かす地域づくり、環境活動に対する評価・顕彰制度など活動の活性化と県民参加の促進

(低炭素社会などの形成に向けた先進的な地域システムづくりの推進)

環境負荷の少ない暮らし方への転換の促進や、地域内での資源の循環利用など先進的な地域システムを構築していく。

○ごみ排出抑制などこれまでの県民運動の拡充、環境制約に対応した新たな県民運動の展開、県民のライフスタイルの転換を促す社会的な仕組みの構築

○未利用資源や再生可能エネルギーの活用など県内の各地域の特性に応じた多様なモデル的な地域システムづくり、先進的な地域システムの県内他地域への導入に向けた情報発信

(地域の環境資産の活用による経済活力の向上)

既存のリサイクル産業の振興を図るとともに、地域の環境資産を活用した新たな産業を創出する。加えて、環境活動を経済的なメリットに結びつける仕組みを構築するなど環境と経済が共に高まり合う好循環を生み出していく。

- 技術開発や基盤施設の整備の促進などによる県内リサイクル産業の競争力の強化
- 技術や環境活動の成果を活用した国内外との交流拡大、環境関連分野での新たな製品やサービスの創出
- 温室効果ガスの排出量取引の本格的導入を見据えた取組みの促進

##### (2) 暮らしや産業を支える社会資本の機能強化・長寿命化の推進

(必要な社会資本の整備と有効活用・長寿命化の推進)

利用者のニーズや地域の実情を踏まえ、必要な社会資本の機能を十分かつ持続的に発揮できるよう、着実かつ適切な整備・維持管理を推進する。

- 災害時の活動拠点の耐震化、災害危険箇所の解消、災害に備えた地元企業等との連携体制の充実強化、利活用を含めた雪対策の推進
- 日常生活を支える交通ネットワークの整備、高速道路などの整備や鉄道・空港・港湾の機能強化、高速・大容量の情報通信ネットワークの整備・利活用促進
- 地域独自の基準に基づいた整備などの推進、施設の計画段階から整備・維持管理・利活用・除却まで住民等が参加する取組みの拡大
- 既存施設の有効活用や長寿命化とアセットマネジメントシステムの導入促進、及び景観形成や環境負荷の低減、ユニバーサルデザインの導入など社会資本の質的な充実・向上  
注)「アセットマネジメントシステム」:社会基盤を資産ととらえ、その劣化等を将来にわたり推測することにより、最も費用対効果の高い維持・管理や対策を行うための方法のこと

##### (3) 地域の特色を活かす重層的な生活圏の形成

(地域の特色を活かし暮らしを支える生活圏の形成)

日々の暮らしに不可欠な機能やサービスを身近に利活用できる圏域(「身近な生活圏」)を形成する。(医療、介護サービス、日用品の購入、義務教育、除排雪など)

暮らしの充実や質の向上に必要な機能やサービスが容易に利活用できる圏域(「地域生活圏」)を形成する。(高度医療、高等教育、芸術・文化など)

各地域の特色を活かしながら、相互の連携を通じて、地域の活性化を図るとともに、県全体の活力や魅力向上に結び付けていく。

- 市街地(「まち」)における生活支援機能の維持・向上、過疎地域や中山間地域などにおけるコミュニティ機能の再生・強化や生活に不可欠な機能の確保
- 地域の中心となる都市における中心市街地の再生など都市の拠点性強化、都市の周辺地域の資源を活かした多様な交流の拡大・新たな事業の創出、「地域生活圏」間等での相互の機能活用の推進

### Ⅲ. 地域の発展方向

各地域の個性や魅力を、人々が一体となり磨き上げ、誇りの持てる地域を創造するとともに、相互の連携を通じて、県全体の活力や魅力向上に結びつける。

#### 1. 村山地域の発展方向

都市と農村が共鳴しあい、様々な県民活動が展開される田園都市圏「村山」

- 人口や県内総生産が県の約半数を占め、様々な産業や教育研究機能等の集積がなされている。また、最上、置賜、庄内、仙台圏域を結ぶ要の位置ともなっており、この地域特性を活かした企業間連携や地域間交流など、これからの村山地域の発展に繋がる取組みが始まっている。
- これまで培われてきた有形・無形の資源を磨き上げ、人的・物的・知的な交流と連携を繰り返すとともに、都市的環境と農村・自然環境を大切に「新たな田園都市圏」の形成を目指す。

##### ◎取組みの基本方針

###### ①地域資源を活かし新しい価値を生み出す「村山」の産業群の育成

ものづくり産業の集積を活かした新たな価値を生み出す取組みや、果樹を中心とした有望品種の開発やブランド化、観光と結びつけた総合産業化を推進するとともに、資源循環型社会を担う地域産業の育成を図る。そこから、安定した雇用確保により若者が定着する活力に溢れる地域を目指す。

###### ②交流と連携で活性化の中核都市圏「村山」の形成

南北軸と東西軸の要となる中核都市圏であることから、観光、産業、経済、文化、スポーツなど様々な分野での周辺各地域との交流を深める。併せて、観光客の受皿整備や交流基盤の整備を促進する。

###### ③安心して暮らせる新たな田園都市圏「村山」の創成

県民が生き生きと安心して暮らすことができる生活環境や、多様な主体が協働活動を展開しやすい環境を整備するとともに、地域課題を解決できる自立した新たな地域コミュニティの形成を促進する。

#### 2. 最上地域の発展方向

生涯いきいきと豊かなライフスタイルを実現できる最上へ ～ 最上エコポリスの新たな展開 ～

- 最上地域は、里地里山の自然と一体となった生活文化を継承しながら、農林業を中心とした産業の振興を図ってきた。また、最上エコポリス構想のもと、バイオマスの利活用推進、農山村の教育旅行の受入体制整備など豊かな資源を活かした内発的発展の動きも現れている。今後は、これらの取組みを基に、地域の主産業である農業を活かしつつ、厚みのある産業づくりに向けた取組みを進め、低炭素社会の実現に向けた環境先進地域を目指す取組みを進めていく。
- ゆったりした時間が流れる「日本のふるさと」として、身近な自然に包まれ、互いに見守り支え合いながらいきいきと生活し、子供を生み育て、老いても健康で働き続けられる豊かなライフスタイルの実現に向けた取組みを進める。また、地域に触れて学ぼうとする人々を積極的に受け入れる地域を目指す。

##### ◎取組みの基本方針

###### ①農業ブランド大国「最上」のくにづくり

最上全域を1つの農場として捉え、「有機の里」づくりによる地域ブランドの確立、耕作放棄地の活用による「最上山菜王国」の復活などに地域が一体となって取り組み、収益性の高い農業を目指す。

###### ②人と技術が活きる最上の産業づくり

高等教育機能の強化による人材育成やバイオマスなどの地域資源を活用した産業の育成を図る。

###### ③安全・安心を支え交流・連携を推進する基盤づくり

高速度十字連携軸の整備促進、県立新庄病院を核とした地域医療体制の充実、高齢者世帯などへの除排雪支援や交通手段の確保対策を進める。

###### ④住民がいきいきと暮らせる地域づくり

地域力が発揮されるコミュニティづくりと生涯現役社会の形成を図る。

#### 3. 置賜地域の発展方向

伝統・文化が実を結び、人々が支え合い輝く、力強い産業が根を張る魅力ある置賜の創造

- 江戸期、上杉鷹山公が農業振興、殖産興業、人材育成策を展開した置賜地域は、東北でも冠たる集積を持つ製造業や高いブランド力を持つ米沢牛などの産業形成の素地があり、人々には、歴史のなかで育まれた多様な文化や「義」を重んじる精神性、互助・福祉の心などが息づいている。
- 高い付加価値を生み出す景気変動の影響を受けにくい力強い産業群の形成を目指すとともに、地域で暮らす誰もが、安心して生きがいを持って生活することができる地域を形成し、新しいかたちの協働や新旧多様な文化活動が地域に広がり、互いに輝き合う社会の形成を目指す。

##### ◎取組みの基本方針

###### ①生活を支え、置賜の活力を生み出す、足腰の強い産業群の形成

産学官連携を一層強化し、製造業の高付加価値化や厚みのあるものづくり地域の形成、農業のブランド力の向上による高収益確保を図る。

###### ②住んで良かったと実感できる活力あふれる置賜の創造

地域の様々な主体の協働の取組みを促進し、保健・医療・福祉サービスを充実させるとともに、多様な文化資源の魅力と可能性を発掘、発信して、地域への誇りと愛着心を育てる。また、若者やNPOなど地域の新たな担い手の伸張を助長して、地域課題の解決を進める。

###### ③人々が行き交い豊かに暮らす魅力ある置賜に向けた基盤の整備

首都圏や隣接県との交流を広げ、地域内の公共交通網や情報基盤を整備・維持するとともに、災害や雪に強い地域づくり、地域資源を活用した地域おこし、まちの賑わいづくりなどを進める。

#### 4. 庄内地域の発展方向

海・山・平野と歴史が育んだ文化・産業と新たな胎動が融合した新しい地域モデルの創造

- 庄内の自然や歴史は、上質な文化やものづくり産業などを育み、庄内は日本の良さが凝縮された地域である。「食」産業での全国的な活躍、映画ロケ地として国内外での知名度向上、生命科学研究の国際的評価など、発展の兆しとなる新たな胎動が生じてきている。
- 自然を敬い、人々が支え合う公益の心を大事にし、創意工夫を凝らしながら仕事に取組むという庄内の姿を守りながら、新たな胎動を活用する取組みを推進し、「伝統と革新が融合した活力に富んだ新しい地域モデル」を創造し、国の内外に存在感のある地域として発展していくことを基本目標とする。

##### ◎取組みの基本方針

###### ①公益の心と活動が支える安心して暮らせる地域社会の実現

人々が生涯を通して安心して暮らせる社会を実現するとともに、地域資源を活用した魅力づくりと公益の心や活動を醸成する取組みを通して地域への愛着心や誇りを育て、地域の活性化と新しいコミュニティの創造を図る。

###### ②「食」と「映画」が牽引する庄内の魅力発信と雇用を生み出す知的産業群の形成

「食の都庄内」づくりを進め、食に関わる産業の総合的な振興を図るとともに、映画ロケ地としての発信力を活用して滞在型観光の推進、サービス業などの活性化を図る。学術機関と企業の連携などにより産業クラスターを育成し、地域の特長を活かした知的産業群を構築し若者などの定着を促進する。

###### ③海・山・平野の環境を守り、北東・東アジアに通ずる交流基盤の整備

豊かな自然や景観美、生態系を後世に継承し、併せて小規模水力発電の利用などにより新しい風景を作り出す。防災対策を推進するとともに、高速交通網の整備充実と秋田・新潟との広域交流の拡大、酒田港の物流機能の維持・強化を進め、北東・東アジアへの交流基盤を整備する。